

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和2年度 第1回社会教育委員会議定例会			
事務局 (担当課)	生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286(直通)			
開催日時	令和2年8月24日(月)～9月4日(金)			
開催場所	書面会議形式			
出席者	委員	14人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数
公開不可・一部不可の場合は、その理由	書面会議のため			
会議次第	<p>議題1 委員の社会教育・生涯学習に関する取り組み内容の情報共有について</p> <p>議題2 令和2年度相模原市社会教育委員会議の開催について</p> <p>議題3 その他</p>			

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の意見、 は事務局の回答)

(協議を書面等で行った理由)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、書面により委員からの意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

### 議題1 委員の社会教育・生涯学習に関する取り組み内容の情報共有について

議題について、事務局より資料を送付し、情報共有を行った。

本議題内容について、次のとおり意見があった。

多方面にわたる多様な取り組みには、関わった多くの人の継承する努力があったことが想像できた。活動をつなぎ広めるために、社会教育という大きな輪をつくり出すこと、そこでつながりある活動をつくり出すことが必要。

社会教育を必要としているのは、参加方法等を知らない人や、環境や条件で参加できない人たちだと思う。多くの方が参加できることは大切なことだが、対象者を絞って参加できるような条件を整えることも必要である。そのような人々を調査し、情報を届け、参加できる場を創ることも、社会教育を広げ、後継者を育成していくことにつながる。

事例には、「世代間交流」「地域の人材発掘」「公民館と学校との連携」「ボランティアのスキルアップ」等、一つの事業に多くのものが盛り込まれている。地域での事業の参考にしていきたい。

事例を読み、発達サポート講座を通して、発達障害児への理解や支援者を増やしていくことは大切であると感じた。私自身、3年間養護学校等の放課後デイサービスで働いた中で、発達障害のある子との接点が全く目にすることがない。接点が増えれば大人も子どもも、自然に受け止められる共生社会が生まれると思う。そこに向けての取り組み等があれば知りたい。

事例の「江戸川総合人生大学」に興味を持った。単発の講座ではなく、継続的な学びの場(地域大学)を提供しているが、実際の参加人数や受講料等、詳しく話を聞きたい。

このようなテーマで調査してみたいという項目を出してもらってはどうか。その場合、「コロナ禍でのコミュニティのあり方」、「コロナ禍での生涯学習」についての調査を希望する。いずれも対面的なコミュニケーションが制限される中、どのような形式が考えられるか、その効果等について、海外の事例等も含めて調査検討する。

今後、多様な情報発信、交流、学習、コミュニケーションが求められるか、この機会を通じて検討することを提案する。

実際に事業企画・運営に携わる委員が多いため、社会教育委員の役割は社会教育計画の立案という点に立ち返り、昨年度までの提言や新しい教育振興計画に基づいた、学習テーマ別にモデルプログラムを作成してはどうか。公民館職員や図書館職員等と意見交換の機会を設けて作成すると、職員の研修にもなる。

たとえば、第2次 教育振興計画に関連づけてこのようなテーマを考えてみた。

基本方針 生涯にわたる学びの推進

目標4 施策13 生涯にわたって学び生かす学習機会の提供

主な取り組み ~ 社会教育施設における学習機会の提供に関わるもの  
「学習テーマ例 ア 公民館専門員にむけた地域課題に即した企画立案の方法」  
主な取り組み 共生社会の実現に向けた学習機会の提供に関わるもの  
「学習テーマ例 ア 人権感覚育成のための講座  
イ 障害等への理解促進のための講座」

他の委員の方々の得意分野と昨年度までの提言をすり合わせて色々なテーマが考えられるのではないかと。

コロナにより対面と対話がかなわず満足な意思疎通が阻まれ、社会全体があらゆる面で閉塞状態にあるといっても過言ではない。特に懸念するのは、社会的弱者（高齢者、障がい者、経済的困窮者、ひきこもり等）の孤立が深まりやしないかということである。

本会議で作成した地域コミュニティに係る研究調査報告書（令和元年12月）の提言は往来・交流、対面・対話を当たり前の前提としているが、具体的な活動に踏み出そうとすると「非接触」が壁となる。集合学習や協働活動ができにくい状況の下、どのような方法がとりえるのか。能動的な方々ばかりではない。オンラインは意思疎通面で限界がある。情報環境に恵まれない方も少なくない。しかし、いかなる理由があろうとも、社会的分断はあってはならない。

地域コミュニティの熟度は、大人が「我が事」として協働して取り組み、市民意識や自治感覚をどう高め合えるか否かにかかっていることを自戒を込めて再認識した。この貴重な実践例の整理・分析をする中から、社会教育委員会議のこれからの方向性が見えてくるのではと期待している。

互いにフリーな立場で議論した上で、本市の社会教育の問題点をしぼり出すべきと思う。

前回会議では、公民館に関する意見が多かったが、これは委員が公民館を身近に感じているからか、それとも他の生涯教育に対する関心が薄いからか、いずれにしても公民館に関して何らかのテーマを設定すべきと思う。

各活動事例について、配布資料だけでは読み取れない部分もあるため、事業・取り組み説明資料やHP等が見られるといい。青年期や全年齢を対象とした取り組みに、どの層（年齢・所属・状態等の属性）が参加しているのか知りたいと感じた。

若年層（特に無業者層）が、どういった活動で公民館をはじめとする社会教育の場につながるのかを考える契機になるといい。

## 議題2 令和2年度相模原市社会教育委員会議の開催について

議題について、事務局より資料の送付を行い、書面により審議を行った。

審議の結果、賛成多数により可決となった。

本議題内容について、次のとおり意見があった。

会議の開催については、一旦委員に諮るというプロセスを踏んでほしい。

書面のやり取りは会議とは言えないと思う。互いの意見を聞くことで意見が変化し、それらをまとめていくのが合議であるため、今回は対策を取った上で、対面かオンライン会議にしてみたい。

会議の趣旨を踏まえ、今後は、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた上で可能な限り会合形式による会議を実施していきたい。

今後、新型コロナウイルス感染症の拡大等により、やむを得ず会合形式で会議が実施

できない場合は、会議の開催方法等について、委員から意見を集約し、それを踏まえて議長と事務局が協議した上で決定することとしたい。

### 議題3 その他

次のとおり意見があった。

コロナ禍における生涯学習課としての、市の講座等への考え方や方針を聞きたい。  
感染対策をした上で、少しずつ講座を再開してほしい。

市長や議会の生涯教育に対する所見、本市の生涯教育に関する資料が欲しい。  
第2回定例会で、関連資料を配布する。

以 上

令和2年度 第1回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠
1	小泉 勇	相模原市立小学校長会		出席
2	金子 友枝	相模原市文化協会		出席
3	中里 浩章	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
4	藤嶋 直司	相模原市公民館連絡協議会	副議長	出席
5	安西 信行	相模原市青少年関係団体連絡会		出席
6	大橋 千景	虹のおはなし会		出席
7	若林 由美	一般社団法人星と虹色な子どもたち		出席
8	石川 利江	学識経験者(桜美林大学教授)		出席
9	秦野 玲子	学識経験者(RE Learning代表)		出席
10	古矢 鉄矢	学識経験者(学校法人北里研究所参与)	議長	出席
11	小林 政美	学識経験者(特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら 副代表理事)		出席
12	大野 俊文	公募		出席
13	長沢 亜希子	公募		出席
14	三井 泰平	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク 相模原市子ども・若者自立サポート事業 総括コーディネーター		出席

出席者 14名 欠席者 0名